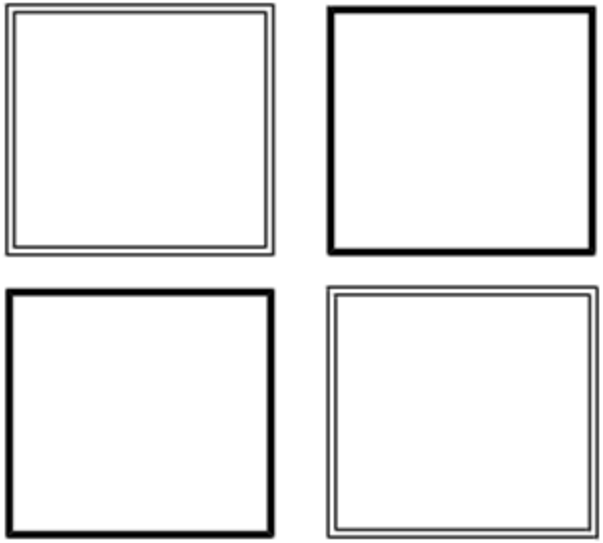
令和７年度年間指導計画

（３年生用シラバス）



富山県立高岡工芸高等学校

■ 目　次 ■

地歴公民 ―――――――――――――――――――― 1

理　　科 ―――――――――――――――――――― 2

保健体育 ―――――――――――――――――――― 4

工業（機　械　科） ―――――――――――――― 5

工業（電子機械科） ―――――――――――――― 6

工業（電　気　科） ―――――――――――――― 7

工業（建　築　科） ―――――――――――――― 8

工業（土木環境科） ―――――――――――――― 9

工業（工　芸　科） ―――――――――――――― １１

工業（デザイン・絵画科） ―――――――――― １４

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	地歴公民科	科目名	歴史総合	教科書	歴史総合 実教出版	学年組	３１H～３７H	単位数	2
年間 目標	1　近現代の歴史の変化に関わる諸事象について世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉える。 2　資料を活用しながら歴史の学び方を習得し現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察・構想する。								

１学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5	第１編 第１章　近代化への胎動 第２章　欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 ・17 世紀を含めた 18 世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の４つの口や周辺地域との貿易などを基に、18 世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解している。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
6 7	第３章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第４章　帝国主義の時代	・19 世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19 世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解している。 ・19 世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのヨーロッパ・アジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したりして、その特徴、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末
１学期授業週数	１２			

２学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	第２編 第５章　第一次世界大戦と大衆社会 第６章　経済危機と第二次世界大戦	・第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭を基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
11 12	第３編 第７章　冷戦と脱植民地化 第８章　多極化する世界	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末
２学期授業週数	１５			

３学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	第９章 グローバル化と現代世界	・グローバル化とはなにかを理解し、地域統合の深化や各国のグローバル化への対応について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	学年末
３学期授業週数	８	年間授業週数	３５	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・知識として学んだ、歴史の基礎や基本的事項が身に付いている。 ・各国の歴史を理解し、その知識を元に各地域の生活について考えることができている。 ・国際社会に生きる日本人として、世界の歴史を正しく理解できている。 ・図表から必要事項を読み取ることができる。 ・資料を活用し、導き出した過程や結果を適切に表現している。
思考・判断 ・表現	・多くの学習内容を、自分なりに整理して考えようとしている。 ・自分独自の視点で、様々な歴史的作業を行っている。 ・自然環境の違いにより人々の生活に違いがあることを理解し、判断している。
主体的に学習に取り組む態度	・歴史の授業に際し、興味・関心を持ち、主体的・自主的に授業に参加している。 ・発問に対し、真摯な態度で考え積極的な姿勢を見せている。 ・プリントの穴埋めや、ノートの整理・工夫に意欲的である。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	生物基礎	教科書	新編　生物基礎 （数研出版）	学年組	31～35H	単位数	2
年間目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4	第１章　生物の特徴 １節　生物の多様性と共通性	・多様な生物にも共通性があることを理解する。 ・多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
5	２節　エネルギーと代謝 ３節　呼吸と光合成	・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 ・生命活動にはATPのエネルギーが利用されていることを理解する。 ・呼吸や光合成ではATPが合成されていることを理解する。 ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。		
6	第２章　遺伝子とそのはたらき １節　遺伝情報とＤＮＡ ２節　遺伝情報の複製と分配	・DNAの構造を理解する。 ・DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・DNAが複製されるしくみを理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末
7	３節　遺伝情報の発現	・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 ・からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。		
１学期授業週数	１２			

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9	第3章 ヒトの体内環境の維持 １節　体内での情報伝達と調節	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
10	２節　体内環境の維持のしくみ ３節　免疫のはたらき	・自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 ・私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 ・免疫と、病気や治療法との関係について理解する。		
11	第４章　生物の多様性と生態系 １節　植生と遷移 ２節　植生の分布とバイオーム	・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・日本に分布するバイオームについて理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末
２学期授業週数	１５			

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1	第４章　生物の多様性と生態系 ３節　生態系と生物の多様性	・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系の中で、多様な生物がどのように関係して、存在しているのかを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	学年末
2	４節　生態系のバランスと保全	・生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。 ・人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。		
３学期授業週数	８	年間授業週数	３５	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	地学基礎	教科書	高等学校　地学基礎 （第一学習社）	学年組	31～35H	単位数	2
年間目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								

１学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5	第１章　地球のすがた 第１節　地球の概観 第２節　プレートの運動	・地球の形の特徴と大きさについて、観察や測定の結果などから理解する。 ・地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解する。 ・プレートの分布と運動の様子や、プレート運動によって大地の形がどのように形成されるかについて理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
6 7	第２章　地球の活動 第１節　地震 第２節　火山活動	・火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解する。 ・３観測点の震源距離から、震央、震源が求まることを、立体的に理解させ、２次元の紙の上で作図できる。 ・活断層と震源断層の分布について理解する。 ・マグマの性質と火山の形との関係を理解する。 ・火成岩に含まれる造岩鉱物の種類と量は連続的に変化すること、造岩鉱物の割合によって、火成岩が分類させることを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	第３章　大気と海洋 第１節　地球のエネルギー収支 第２節　大気と海洋の運動	・大気の構造の概要を理解させ、地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解する。 ・緯度によって太陽放射の受熱量が異なること及びそのことで生じている大気の大循環や海水の運動により、地球規模で熱が輸送されていることを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
11 12	第４章　宇宙と地球 第１節　宇宙と太陽の誕生 第２節　太陽系と地球の誕生 第５章　生物の変遷と地球環境 第１節　地層と化石 第２節　地球と生物の変遷	・恒星などの集団である銀河が分布している宇宙について、その誕生と現存のすがたを理解する。 ・恒星の一つである太陽について、表面付近に見られる現象、エネルギー源及び進化について理解する。 ・地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す環境をもつ惑星となった過程を理解する。 ・地層が形成される仕組みと地層や岩石に見られる地質構造について理解する。 ・古生物の変遷などに基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目 （単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	第６章　地球の環境 第１節　地球環境の科学 第２節　日本の自然環境	・人間生活と関連している地球規模の自然環境の変化を科学的に考察する。 ・日本における自然環境が人間生活と深く関わっていることを考察する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	学年末

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・地学的な事物・現象についての原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。 ・学んだ内容が関連づけて整理され定着している。
思考・判断・表現	・基本的な学習内容を整理・整頓し、科学的な見方や考え方で課題に取り組むことができる。 ・実験のデータを整理して得られた結果から、事象を論理的に考察することができる。 ・学習内容を活かして、社会や生活との関連を考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	・自然の事物や事象に関心を持ち、実験や観察にも積極的に取り組んでいる。 ・チームワークに配慮し、実験や観察に積極的に取り組んでいる。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ２０２３	学年組	３年全	単位数	３
年間目標	(1)各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2)各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3)運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	体つくり運動 体育理論 集団行動 陸上競技 スポーツテスト バレーボール ソフトテニス バドミントン 柔道 剣道 より１種目選択	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行う。 体力を高める運動を行い、体力の向上を目指す。また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付ける。走跳投の理想的な技術を理解し、実践を通して個人の記録向上を目指す。 球技では、基本的なストロークを身に付け、ラリーが続けられるようにする。また、ルールを覚えてゲームで勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 １ 知識・技能35%程度 ２ 思考・判断・表現35%程度 ３ 主体的に学習に取り組む態度30%程度	
１学期授業週数	１２			

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10 11 12	体つくり運動 体育理論 サッカー バスケットボール バレーボール ソフトテニス ソフトボール 柔道 剣道 ダンス より２種目選択	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。 ダンスでは、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを体験するとともに、自他の良さを認め合うことの大切さに気付く。表現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、仲間と協力して即興的に表現できるようにする。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 １ 知識・技能35%程度 ２ 思考・判断・表現35%程度 ３ 主体的に学習に取り組む態度30%程度	
２学期授業週数	１５			

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	体つくり運動 体育理論 バドミントン バスケットボール 卓球 柔道 剣道 より１種目選択	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 １ 知識・技能35%程度 ２ 思考・判断・表現35%程度 ３ 主体的に学習に取り組む態度30%程度	
３学期授業週数	８	年間授業週数	３５	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている。
思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作教材	学年組	３１Ｈ	単位数	３

年間目標
1　環境の整備を心がけ、危険を予知し、安全作業に徹する態度を養う。
2　自らが設定した課題に取組む中で、機械の専門知識と技能の深化、総合化を図る。
3　主体的な学びを通して問題解決能力を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	７班に分けて課題研究を実施 各班にて設計・製作	テーマの設定・調査研究を自主的に実施し、製作準備を進める。 安全に機械・工具を使用し、様々な加工を行う。 問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。 休業中の計画を立て、自主的な製作活動を行う。	レポート等の内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	各班にて設計・製作	問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	
11 12	各班にて設計・製作 作品の完成 レポートの製作	作品を完成させ、報告書を作成する。 製作の過程をまとめ、発表用資料の製作を行う。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	プレゼンテーション作成 レポートの完成	作品及び研究内容の発表を行う。 レポート製作及びプレゼンテーションを実践することにより、研究・製作のまとめを行う。	評価の３つの観点から評価した１学期の成績、２学期の成績及び３学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業の各分野に関する知識を身に付け、安全や環境に配慮した作業を合理的かつ適切に計画、実施することができる。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、幅広い知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、成果を的確に表現・発表することができる。
主体的に学習に取り組む態度	工業に関する技術について関心をもち、自らの考えを実現するために意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、自主的な態度を身に付けている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作プリント等で対応	学年組	３２H	単位数	３

年間目標
1　環境の整備を心がけ、危険を予知し、安全作業に徹する態度を養う。
2　課題研究で学んだことや調べたことをレポートにまとめ提出する。
3　工業技術に関する興味・関心を高め、広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5	小班に分けて課題研究を実施 ・研究実施計画の検討 ・各班にて設計・試作	テーマの設定・調査研究を自主的に実施し、製作準備を進める。 安全に機械・工具を使用し、様々な加工を行う。 問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	
6 7	・各班にて設計・試作	問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。 休業中の計画を立て、自主的な製作活動を行う。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	各班にて製作・改良 尚美展での作品展示	中間まとめとして、作品の完成及び展示用パネルの製作を行う。 尚美展の作品として、展示を行う。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	
11 12	各班にて製作・改良 作品の完成 レポートの作成	作品を完成し、報告書を作成する。 製作の過程をまとめ、発表用資料の製作を行う。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	プレゼンテーション製作 レポートの完成	作品及び研究内容の発表を行う。 レポート製作及びプレゼンテーションを実践することにより、研究・製作のまとめを行う。	評価の３つの観点から評価した１学期の成績、２学期の成績及び３学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識 ・ 技術	工業の各分野に関する知識を身に付け、工業の発展と環境との調和のとれた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。 安全や環境に配慮し、実際の作業を合理的に計画し、適切に処理することができるか。
思考 ・ 判断・ 表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、幅広い知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	工業に関する技術について関心をもち、自らの考えを実現するために意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、自主的な態度を身に付けているか。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作テキスト	学年組	３３H	単位数	３
年間目標	・これまでに学習した電気の科目を生かした作品を製作し、その活動を通して工業に関する知識と技術の深化、総合化を図る。 ・企画、製作、発表、報告書の作成そして学習活動の振り返りを通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5	1　企画	1-1　グループ編成及び研究テーマを設定する。 1-2　作品の到達目標を設定し、年間研究計画を作成する。 これまでに学習してきた電気の知識と技術を十分に活用できるテーマ設定をする。	取組内容が課題解決につながっているか、作品及び、作業工程から評価する。 適切な作業を積極的に行っているか。	
6	2　調査・研究・試作	2-1　作品の製作に必要な情報・資料を収集する。 2-2　使用材料と製作工程を考える。 2-3　材料を揃え試作等を行い、見通しを立て製作を進める。 製作にあたって必要な機械操作や材料加工技術を習得する。		
7	中間発表Ⅰ	2-4　これまでの作品と製作過程、今後の活動について報告する。 発表５分（パワーポイント、概要A4版１枚）		

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9	3　製作	3-1　材料を揃え、計画的に製作を進める。 3-2　総合的な制御方法を考える。 日々の活動を記録し、常に見直しや検討を重ね、主体的に研究を進める姿勢を身に付ける。		
10	中間発表Ⅱ	3-3　尚美展において製作してきたものを展示する。 （中間での製作物と今後の計画について発表）		
11	3　製作	3-5　製作を進め作品を完成させる。 3-6　動作試験を行う 3-7　作品を改善する。 製作活動を通して、さらに新しい知識と技術を学びながら作品を完成できるようにする。	取組内容が課題解決につながっているか、作品及び、作業工程から評価する。 適切な作業を積極的に行っているか。	
12	中間発表Ⅲ	これまでの作品と製作過程、工夫点、改善点について報告する。 発表５分（パワーポイント、概要A4版１枚）		

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	4　報告書作成 5　課題研究発表会	4-1　学習内容を確認する。 4-2　作品の良いところ、改善点を考える。 研究成果を分かりやすく報告書にまとめる。（A4版30枚） 5-1　作品の内容を適切に人に伝える。 5-2　自分の学習活動を適切に人に伝える。 発表準備（パワーポイント、概要A4版１枚、発表会原稿） 課題研究発表10分から15分	取組内容が課題解決につながっているか、作品及び、作業工程から評価する。 適切な作業を積極的に行っているか。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、課題解決のために必要な知識・技術を活用する能力を身に付けている。 ・正しく工具などを使い、的確かつ安全に作業を行う能力を身に付けている。
思考・判断・表現	・課題解決のために思考を深め、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力が身に付いている。 ・研究成果をまとめ、それらを他人に正しく伝えるため、効果的な展示方法、発表能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	・工業の発展や社会貢献に関する課題を自ら設定し、その課題を意欲的に解決する学習態度を身に付けている。 ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作教材	学年組	34H	単位数	3

年間目標
1　建築について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。
2　建築に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき解決する力を養う。
3　課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4		グループを決め、研究のテーマを設定する。		
	・企画	・グループごとに研究目標を設定する。		
	・計画	・グループごとに研究計画を立案する。		
	・制作	・研究計画に沿って作品を制作する。		
	・研究課題の報告書の作成	・研究した内容について報告書もしくはプレゼンボード等を作成する。		
	・発表	・研究した内容についてまとめ、発表を行う。		
5	研究テーマ			
	○外部建築設計競技（コンペ）	○外部建築設計競技（コンペ）を対象とした作品制作(自由設計)		
	作品の計画及び制作	〈スケジュール〉	課題への取組み方、提出物及び理解度を総合的に判断する。	
	北陸の家づくり設計コンペ	1．テーマ、設計条件の検討		
	高校生の「建築甲子園」	2．コンセプト、構想、エスキスの検討		
6	各大学（日本工業大学、	3．図面の下書き、詳細部検討		
	日本大学、九州産業大学、	4．模型、パース作成		
	愛知産業大学等）が主催する	5．図面の仕上げ、着彩		
	建築設計競技　等	6．作品のレイアウト		
7	○既存建築物の模型制作	○既存建築物、あるいは歴史的建築物の模型制作を行う。 〈スケジュール〉 1．対象建築物の選定 2．測量もしくは寸法の検討 3．設計図作成 4．模型制作		

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9	○木工作品の制作	○木材等を用いて、作品を制作する。 〈スケジュール〉 1．制作物の検討・決定 2．寸法の検討 3．設計図作成 4．作品制作	課題への取組み方、提出物及び理解度を総合的に判断する。	
10				
11	○自由設計作品の制作	○大規模建築物(図書館、学校、美術館など)の自由設計 〈スケジュール〉 1．テーマ、設計条件の検討 2．コンセプト、構想、エスキスの検討 3．図面の下書き、詳細部検討 4．模型、パース作成 5．図面の仕上げ、着彩 6．作品のレイアウト	課題への取組み方、提出物及び理解度を総合的に判断する。	
12		上記のような研究テーマを参考に２学期まで作品制作に取り組む。		

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1	・課題研究発表会の準備	・各自の課題研究の取組みや成果についてプレゼンテーションソフトを活用してまとめる。聞く相手に伝わるよう、内容を整理し、表現方法等を工夫する。	課題への取組み方、提出物及び理解度、研究発表の内容や発表態度等を総合的に判断する。	
2	・課題研究発表会	・建築科１、２、３年生を対象として発表を行う。発表を聞く相手に、内容が正確に伝わるよう、発表態度、姿勢、表現方法、話法などを意識し、プレゼンテーションを行う。 ・他者の発表を聞き、研究内容や発表における表現方法等を自らの知識や技術として吸収し、今後の学習や生活に活かす。		
3				

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	建築に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、設計から施工までの各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。
思考・判断・表現	建築の各分野に関する知識や技術の基礎・基本を理解したうえで、実社会や実生活と自己の関わりから課題を見いだし、建築に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	課題の発見や解決、作品制作の各過程で、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。建築の各分野の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	測　　量 土木基礎力学１ 土木基礎力学２	学年組	３５Ｈ 土木工学コース	単位数	３
年間目標	・土木や環境に関する課題を設定し、その問題解決を図る学習を通して専門的な知識や技術を習得する。 ・問題意識を常にもち、自ら考えて実習に取り組むことにより実践的な力を高める。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	・班編制、文献調査 ・器械や実験機器の確認 ・研究課題の決定 ・作品製作、実験の方法を考える。 ・器械や実験機器、道具、材料の準備 ・製作、実験	・土木環境の学習内容を基に、興味、関心のある事項や、既習事項でさらに深く学びたい課題を設定する。 ・班員や指導教員と意見交換し、必要な器械や材料の選定及び作業計画を立案する。	授業への取組み方を総合的に判断する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	・製作、実験	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組むことができる。	授業への取組み方を総合的に判断する。	
11	・研究結果のまとめ	・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフをしっかりと描く。	授業への取組み方を総合的に判断する。	
12	・結果や作品に対する考察、反省	・研究結果に対する考察をする。		

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2	・論文の作成 ・課題研究要旨集の作成 ・発表内容をパワーポイントでまとめる。	・研究内容を論文にまとめる。 ・プレゼンテーション用スライドを作成することができる。 ・より効果的なプレゼンテーションをするための創意工夫をする。	授業への取組み方を総合的に判断する。 課題への成果、プレゼン、自己評価を総合的に判断する。	
3	・発表練習 ・科内課題研究発表会 ・課題研究発表会	・聞き手にしっかり理解してもらえるように発表する。		

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識 ・ 技術	工業の各分野に関する知識を身に付け、工業の発展と環境との調和のとれた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。 安全や環境に配慮し、実際の作業を合理的に計画し、適切に処理することができるか。
思考 ・ 判断・ 表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、幅広い知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	工業に関する技術について関心をもち、自らの考えを実現するために意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、自主的な態度を身に付けているか。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作プリントで対応	学年組	３５H 環境化学コース	単位数	３
年間目標	・環境や化学に関する課題を設定し、その問題解決を図る学習を通して専門的な知識や技術を習得する。 ・絶えず問題意識をもち、自ら考えて実習に取り組むことにより実践的な力を高める。 ・グループ内のコミュニケーションを密にし、他の生徒と協力して未知の問題を解決する力を高める。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	・班編制、文献調査 ・器械や実験機器の確認 ・課題の決定 ・作品製作、実験の方法を考える。 ・機械や実験機器、道具、材料の準備	・土木環境科の学習内容を基に、興味、関心のある事項や、既習事項でさらに深く学びたい課題を設定する。 ・班員や指導教員と意見交換し、必要な器械や材料の選定及び作業計画を立案する。	授業への取組む態度、活動報告書などの提出物を総合的に判断する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	・製作、実験 ・研究結果のまとめ ・結果や作品に対する考察、反省	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組む。 ・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフがきちんと描く。 ・研究結果に対する考察をする。	授業への取組む態度、活動報告書などの提出物を総合的に判断する。	
11 12	・製作、実験 ・研究結果のまとめ ・結果や作品に対する考察、反省	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組む。 ・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフがきちんと描く。 ・研究結果に対する考察をする。	授業への取組む態度、活動報告書などの提出物を総合的に判断する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	・報告書の作成 ・課題研究要旨集の作成 ・発表内容をプレゼンテーションソフトを活用してまとめる。 ・発表練習 ・科内課題研究発表会	・研究内容を論文にまとめる。 ・プレゼンテーション用スライドを作成する。 ・より効果的なプレゼンテーションをするための創意工夫をする。 ・聞き手にしっかり理解してもらえるように発表する。	授業への取組む態度、活動報告書などの提出物及び発表態度などを総合的に判断する。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・研究内容や実験方法に関する具体的な知識を身に付け、現代社会における環境化学の意義や役割を理解している。 ・作業を合理的に計画し、適切に処理できる。
思考・判断・表現	・作品製作や実験方法について自ら考え、創意工夫する能力を身に付けている。 ・研究結果を適切にまとめ、内容を分かりやすく発表できる。
主体的に学習に取り組む態度	・自ら設定した課題を解決しようとする積極的な態度が見られる。 ・班内のコミュニケーションを積極的にとり、常に共通理解を図ろうと努めている。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究（木材工芸）	教科書	インテリア計画 インテリアエレメント生産	学年組	36H	単位数	3

年間目標

1　伝統的な工芸に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
2　これまでに習得した木材工芸に関する基礎的な知識と技術を制作場面で活用し、創造的に応用する能力と態度を育てる。
3　これまでに学んできた知識や探究をとりまとめ、発表する能力と態度を育てる。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	【課題１】 （木製家具・工芸品） 【学習の流れ】 1 アイデア・図面の作成 2 原寸図や模型の制作 3 材料の選択・木取り 4 切削加工 機械加工、手加工	二年次の専攻別履修で習得した人間工学や生産技術に基づき、使い方や目的に合った家具や工芸品のデザイン・設計をする。 1　制作するために必要な三面図、部品図などの製図を描く。 2　アイデアより具体的に理解するために、スケッチや三面図などを元に原寸図や模型を制作する。 3　各材料の特質を理解し、製作する作品に適した材料が選択し、歩留りや歩増しを考えた無駄のない木取りを理解する。 4　指物における各種の継手、仕口の特徴を理解し、最も効率のよい接合法を選択活用する。各種の鉋を使った、平面、曲面の切削加工をする。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	4　切削加工 機械加工、手加工 5　木工旋盤･轆轤加工	4　安全で正確な部材加工を行う。 5　木工旋盤や轆轤の操作法を理解して安全で正確な加工を行う。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	
11 12	「尚美展にて展示発表」 6 組立加工 7 付帯、仕上げ加工	中間発表として、これまでに取り組んできた課題について、展示･発表できるように資料をまとめる。 6　制作した工芸品の付加価値を高めるための塗装や付帯加工について考え、付加価値の高い工芸品の製作を行う。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	8 課題研究発表会に向け、発表資料を作成する。 「科内課題研究会にてプレゼンテーション実施」	8　これまでに探究･制作してきた課題について、作品の実物や模型、設計図、写真、動画などについてプレゼンテーションソフトウエア等を活用し、効果的な発表資料にまとめる。 「相手に伝わる」発表を目指し、資料の提示や話し方について工夫する。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・これまでに習得した知識を活用し、かつ統合し適切に取り入れているか。 ・これまでに習得した技能を活用し、かつ新たな挑戦をしているか。
思考・判断・表現	・課題の構想について、独創性、創造性はあるか。 ・工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より良い作品への応用力を身に付けているか。 ・発表に必要な資料を選び、効果的に活用しているか。
主体的に学習に取り組む態度	・課題に興味・関心をもち、意欲的に取り組む態度を身に付けているか、実習への参加の仕方や態度、課題への取組状況が良好であるか。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究（金属工芸）	教科書	デザイン実践	学年組	36H	単位数	3

年間目標

1　伝統的な工芸に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
2　これまでに習得した金属工芸に関する基礎的な知識と技術を制作場面で活用し、創造的に応用する能力と態度を育てる。
3　これまでに学んできた知識や探究をとりまとめ、発表する能力と態度を育てる。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	【課題】(工芸品) 「自由課題」 【学習の流れ】 1 アイデア・図面の作成 2 原寸図や模型の制作 3 材料の選択 4 切削加工 機械加工、手加工	二年次の専攻別履修で習得した生産技術に基づき、使い方や目的に合った家具や工芸品のデザイン・設計をする。 1　制作するために必要なデッサン、図面などの制作図を描く。 2　アイデアより具体的に理解するために、スケッチや図面などを基に原寸図や模型を製作する。 3　各材料の特質を理解し、制作する作品に適した材料を選択する。厚紙模型などを手がかりに無駄のない材料取りを理解する。 4　金属加工における各種の継手、仕口の特徴を理解し、最も効率のよい接合法の選択活用をする。各種の用具を使った、平面、曲面の切削加工を行う。	課題制作への取組状況や態度、意欲などを観点別に評価する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	4　切削加工 機械加工、手加工	4　安全で正確な部材加工を行う。	課題制作への取組状況や態度、意欲などを観点別に評価する。	

11 12	「尚美展にて展示発表」 5 組立加工 6 付帯、仕上げ加工	中間発表として、これまでに取り組んできた課題について、展示・発表できるように資料をまとめる。 5　制作した工芸品の付加価値を高めるための塗装や付帯加工について考え、付加価値の高い工芸品の製作を行う。	課題制作への取組状況や態度、意欲などを観点別に評価する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1 2 3	7 課題研究発表会に向け、発表資料を作成する。 「科内課題研究会にてプレゼンテーション実施」	7　これまでに探究・製作してきた課題について、作品の実物や模型、設計図、写真、動画などについてプレゼンテーションソフトウエア等を活用し、効果的な発表資料にまとめる。 「相手に伝わる」発表を目指し、資料の提示や話し方について工夫する。	課題制作への取組状況や態度、意欲などを観点別に評価する。	

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・　これまでに習得した知識を活用し、かつ統合し適切に取り入れているか。 ・　これまでに習得した技能を活用し、かつ新たな挑戦をしているか。
思考・判断・表現	・　課題の構想について、独創性、創造性はあるか。 ・　工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より良い作品への応用力を身に付けているか。 ・　発表に必要な資料を選び、効果的に活用しているか。
主体的に学習に取り組む態度	・　課題に興味・関心をもち、意欲的に取り組む態度を身に付けているか、実習への参加の仕方や態度、課題への取組状況が良好であるか。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究（漆工芸）	教科書	デザイン実践	学年組	36H	単位数	3

年間目標

1　伝統的な工芸に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
2　これまでに習得した漆工芸に関する基礎的な知識と技術を制作場面に活用し、創造的に応用する能力と態度を育てる。
3　これまでに学んできた知識や探究をとりまとめ、発表する能力と態度を育てる。

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4	【課題】（工芸品）「自由課題」	二年次の専攻別履修で習得した生産技術に基づき、使い方や目的に合った工芸品のデザイン・設計をする。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	
5	【学習の流れ】 1　アイデア・図面の作成	・制作するために必要なデッサン、図面などの制作図を描く。		
6	2　原寸図や模型の作成	・アイデアより具体的に理解するために、図案や図面などを基に原寸図や模型を制作する。		
7	3　表現技法・材料の選択	・様々な漆工芸技法の特性や各材料の特質を理解し、制作する作品に適した効果的な技法や材料を選択する。		

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9	3　表現技法・材料の選択	・様々な漆工芸技法の特性や各材料の特質を理解し、制作する作品に適した効果的な技法や材料を選択する。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	
10	『尚美展での展示発表』	中間発表として、これまでに取り組んできた課題について、展示・発表できるように資料をまとめる。		
11	4　加飾、仕上げ加工	・制作した工芸品の付加価値を高めるための加飾や付帯加工などについて考え、付加価値の高い工芸品を製作する。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	
12				

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1	5　課題研究発表会に向け、発表資料を作成する。	・これまでに探究・制作してきた課題について、作品の実物や 模型、設計図、動画などについてプレゼンテーションソフトウェア等を活用し、効果的な発表資料にまとめる。	課題への取組状況や授業態度、意欲などについて観点別に評価する。	
2	『科内課題研究発表会にてプレゼンテーション実施』	『相手に伝わる』発表を目指し、資料の提示や話し方について工夫する。		
3				

３学期授業週数	8	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	これまでに習得した技術や知識を活用し、かつ統合し適切に取り入れているか。 これまでに習得した技能を活用し、かつ新たな挑戦をしているか。
思考・判断・表現	課題の構想について、独創性、創造性はあるか。 工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より良い作品への応用力を身に付けているか。 発表に必要な資料を選び、効果的に活用しているか。
主体的に学習に取り組む態度	課題に興味・関心をもち、意欲的に取り組む態度を身に付けているか。 実習への参加の仕方や態度、課題への取組状況が良好であるか。

令和７年度年間指導計画（シラバス）

教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	デザイン実践 デザイン材料 自作プリント	学年組	デザイン・絵画科 ３年	単位数	３
年間目標	・デザインや絵画について体系的・系統的に理解するとともに、関連付けられた技術を身に付ける。 ・制作するものの特徴や役割をよく考え、効果的なデザインを提案する必要性を体感する。 ・幅広い発想を促し、そのデザインの実現のための表現方法や思考法をより深く追求する力を養う。								

１学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
4 5 6 7	コース課題 １．絵画 「静物画」 ２．プロダクトデザイン 「ハンディクリーナーの提案」	下記の１～４の中でコースを選択し、学習を行う。 油彩で静物を描くことで、構図や色彩、描写に関する力を養う。 様々な生活場面から１つに焦点を当て、必要と思われる小型の掃除機を考える。主体的に情報や資料を収集しながら、深く考え、コンセプトを立案する。 スケッチやラフモデルから得られた情報をフィードバックし、イメージを詳細な数値と図面に描き起こし、レンダリングについて学習する。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取組みの深さなどを総合的に評価する。	

１学期授業週数	１２

２学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
9 10	コース課題 ３．ビジュアルデザイン 「未成年の主張ポスター」 ４．スペースデザイン 「パース着彩練習」 「尚美広場待合学習室の提案」	項目１～４について、選択したコースの学習を行う。 日ごろ問題に思うことを題材に、高校生らしい発想で見た人の心に印象付けるポスターを制作する。問題として取り上げたい内容を、的確に表現するために必要な「アイデア」「キャッチコピー」「構図」「技法」を見つけ出し、より強く伝わる作品を目指す。 ・建物のパースを、立体感・遠近感・質感を意識しながら、適した画材・色彩の選択で表現できるようになる。 ・幅広い発想を促すことを目的として校地を使い、「待合学習室」を考える。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取組みの深さなどを総合的に評価する。	
11 12	課題研究作品制作	コースの領域の中でテーマを選択し、課題制作を行う。 生徒一人一人が、自身の興味関心や将来の夢などを着眼点とした題材を設定する。意欲的に調査・研究に取り組む姿勢や計画的に問題を解決する力を身に付ける。 これまでのコース課題で得た知識・技術を踏まえ、自身のイメージする完成に向けて必要な材料や作業工程を考え、実践していくことで、応用力を養う。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取組みの深さなどを総合的に評価する。	

２学期授業週数	１５

３学期

月	学習項目（単元名）	学習のねらい（内容）	評価方法	考査範囲
1	課題研究発表会の準備	各自の課題研究の取り組みや成果についてまとめる。聞く相手に伝わるよう、内容を整理し、表現方法等を工夫する。	授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取組みの深さなどを総合的に評価する。	
2 3	課題研究発表会	デザイン・絵画科３年生、１・２年生を対象として発表を行う。発表を聞く相手に、内容が正確に伝わるよう、発表態度、姿勢、表現方法、話法などを意識し、プレゼンテーションを行う。 他者の発表を聞き、研究内容や発表における表現方法等を自らの知識や技術として吸収し、今後の学習や生活に活かす。		

３学期授業週数	８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

知識・技術	デザインや絵画に関する技術を社会や生活、自己等との関係を踏まえて総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	デザインや絵画により解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき、構想を立て解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	デザインや絵画による豊かで快適な生活等を構築する力の向上を目指して自ら学び、その発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。